

英語圏滞在の長さが日本人英語習得の重要要因となっているか？

Is the length of staying in English speaking countries the key to the acquisition of English by Japanese learners?

### 【研究背景】

日本において、英語教育、英語学習に膨大なエネルギーが注がれているが、どうも成功していない。実際、英語学習の方法としてさまざまな方法がこれまで提案され、実行されてきているが、日本人の英語運用能力は依然として極めて低い。日本人のTOEFLの平均点が世界的に見て極めて低いということは以前から指摘されていて、現在も変わっていない。その一方で、JACETの会員とかその他、高い英語運用能力を持つ日本人も（以前に比べると）非常に多くなっている。これは一体どういう事態なのであろうか。印象としては、高い英語運用能力を持つ人、あるいは俗に「英語の話せる人」のほとんどはどうも海外、とくに英語圏（English speaking countries）での滞在経験を持ち、しかもそれが比較的長いように思われる。そうした経験の中で英語に熟達してきているように思われる。実際、日本が全体として経済的に豊かになり、渡航費が極めて安くなり、円の相対的な強さのため海外滞在費も安くなっている。そのため多くの日本人が容易に海外に出かけ、留学などしてくるようになった。また、日本の経済的世界進出のために多くの日本人がビジネスのため海外へ（子女をともなって）出かけていく。その結果として、高い英語運用能力を持つ日本人が多くなったのだと思われる。つまり、現状では、日本での英語教育はその多大な努力にもかかわらず残念ながら成功はしていないが、長期海外滞在経験を持つ日本人が増えた分だけ高い英語運用能力を持つ日本人が多くなっているように思われる。

### 【研究目的】

「現状においては、日本人による高い英語運用能力の習得と長期英語圏滞在経験との間に相関、因果関係がある」という単純な仮説を、パイロット・スタディ的であるが、検証することでこれからの日本の英語教育向上への重要な示唆を得ることにある。

### 【仮説】

「現状においては、日本人による高い英語運用能力の習得と長期英語圏滞在経験との間に相関、因果関係がある」

### 【方法】

パイロット・スタディ的であるので、アンケート調査という形で調査を実施。質問内容としては、英語圏長期滞在の有無、あるとすれば何歳の頃、滞在期間の合計、滞在理由・目的、滞場所、英語力自己評価、自分の英語運用能力習得の理由・原因と思われるもの、などである。

### 【本研究によって得られる示唆】

もし、高い英語運用能力を持つ日本人が、現在の日本の英語教育によってではなく、長期英語圏滞在によって生み出されたものであるならば、やはり現在の日本の英語教育に問

11月4日(土) 研究発表3 第1室(106)

題があるということになる。しかし、だからといって、単純に日本人に高い英語運用能力を持たせるために彼らを英語圏へ送り出せということは理不尽であり、いくら何でも実現不可能である。むしろ、このことから得られる示唆は、なぜ海外英語圏に長期滞在した人が英語を上手に使えるようになったかということを考えてみるということにある。英語圏に滞在すれば、とにかく日本にいるときに比べて、圧倒的な英語のインプットがまずある。それに、英語を使用する機会が圧倒的に多くなる。つまり、これらの点を日本での英語教育の中に何とかうまく導入すべきではないかという示唆が得られる。

英語が十分にできるようになるには、短い時間で英語を教える、学習するというのは、どんなすぐれた効率的な方法でやってみてもやはり無理がある。英語のインプット、アウトプットがともに飛躍的に増えるような英語学習のあり方が導入される必要がある。従来のように英語の授業、つまり「英語学習ため」の授業というのだけをやってはとてども間に合わない。たとえば、英語以外のいくつかの科目、さらに学校活動の一部が英語でなされる必要があるだろう。そして、英語の授業(英語の科目それ自身)は、そうした授業、学校活動に対応できるようにサポートする形でがなされるべきであろう。それはちょうど、アメリカ留学を始めた学生が正規の授業を受けながら、ESL/EFLの授業を受けるみたいなものである。それから、日常英会話コースなどは、小学校くらいから始める必要があるだろう(早期英語教育)。というのは、他科目、学校活動の一部を英語でやることによって英語への接触の機会を増やすことができるにしても、学校であるかぎりどうしてもアカデミックな英語に偏ってしまう。高校、大学と進むにつれてこの傾向は顕著になる。ところが、小学生くらいの時期であれば、難しい内容を話したりする必要はないし、まだ感覚的に英語を学べる時期でもあるので日常英語の習得には適した時期であると思われる。

ただ逆に、高い英語運用能力を持つ日本人が必ずしも長期英語圏滞在によって生み出されたものではなく、日本の英語教育の中で生まれてきているという結果が出るとすれば、世間で非難されるほど(典型的には日本人のTOEFLの平均点の低さ)日本での英語教育は悪くないことになる。このことは、日本で英語教育に携わるものに大きな励みになるであろう。